

西宮文化協会

会報

令和七年八月
通巻六八九号

(8) (7)	(6) (5) (4) (3) (2) (1)
同 右	九月行事ワークショップ
同 右	隈研吾と梶原、そして西宮（下）
同 右	（二宮健）
同 右	同 右・西宮万葉風景だより 番外編
同 右	（岡本三千代）
同 右	同 右・五月行事文化講演会「西宮の国登録有形文化財―西宮神社本殿ほかの登録を受けて―」（江寄健一郎）

九月行事ワークショップ

折り―和紙を折る

折りとはかつては格式を表し、贈答の場面で用いられた作法のひとつです。その歴史を学ぶと共に、参加者には実際に折っていただきます。和紙に触れながら楽しく学びましょう。準備の都合上、参加をご希望の方は必ず事前にお申込み下さい。

- 一、日時 九月二十七日（土） 十三時三十分～十五時
- 一、会場 西宮神社会館
- 一、講師 折り普及家 小池博美 氏
- 一、定員 二十名
- 一、材料費 千円
- 一、参加費 会員…無料、一般…五百円
- 一、持ち物 目打ち（又は千枚通し）、定規（三十cm程度）
- 一、申込み 西宮文化協会事務局（西宮神社内）
電話 0798・33・0321
- 一、申込み締切 九月二十日（土）

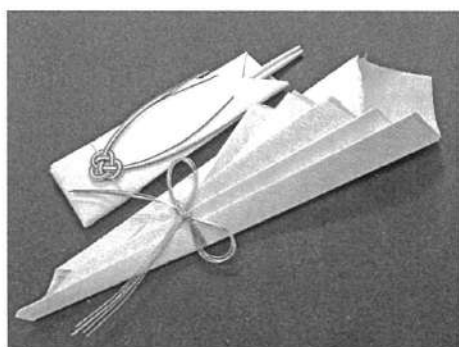
●講師紹介 小笠原流煎茶道教授、包みと結びのお教室主宰。岐阜県下呂市出身。父親の影響で幼い頃から和紙のある暮らしの中で育つ。結婚後三十五歳で夫の駐在に伴い渡米。帰国後、自国の伝統文化の重要性に気付き、折形を山根折形礼法宗家山根一城宗匠と大阪高麗橋 荒木蓬萊堂店主荒木隆弘氏から学ぶ。二〇一四年頃から折形普及活動を開始、今に至る。

●講師コメント 折形とは六百年以上も前から伝わる和紙を折り、ものを包む日本古来の「包みの文化」。

今も私たちの暮らしのそばにあり、金子包み（祝儀袋）も折形のひとつ。相手をおもい贈り物や大切なものを、汚れないように手づから清浄な白い和紙で包む、日本人らしい心くばりが息づいている文化です。

●ワークショップ作品

- ―折り―
- 菊の花包み
- 手漉き本和紙で折る祝箸の包み
- ―水引結び―
- あわじ結び
- 両輪結び



告 予

十月行事 観月祭・月見の宴

日 時 十月六日(月)

観月祭 十八時～

月見の宴 十九時～

*月見の宴は有料となります。

詳細は次号にてご案内致します。



西宮文化協会 会報 第六八九号

発行日 令和七年八月一日

発行者 西宮文化協会 会長 吉井良昭

〒六六二-〇九七四 西宮市社家町一の十七 西宮神社内

電話 0798・33・0321

FAX 0798・33・5355

E-mail: koho@nishinomiya-ebisu.com

印刷所

株式会社 旭プリント